日本山岳会
「高尾の森」通信
http://JACtakao.net
vol.56
2014年11月28日発行

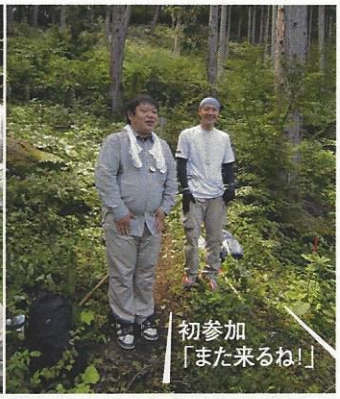
けが人のモデルは会員の三葉さん。参加者全員が交替で急ごしらえの「ザック担架」で山道を運んだが、
“けが人”も“救助者”も予想外の使い心地に大満足！　実地訓練の必要性を痛感。
でもこんなことにならないように気をつけましょう……（11／1　救命救急訓練）

目次

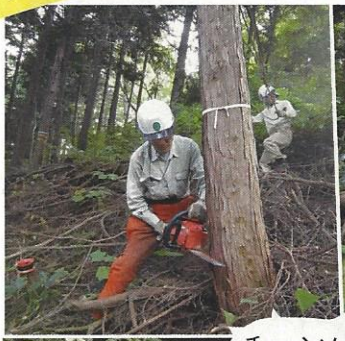
小下沢NOTE ……02
間伐作業体験記 ……03
好評『森の働き講座』 ……04
チェーンソー初体験30本伐倒! ……05
第8回気仙沼大島プロジェクト作業報告 …05
チェーンソー特別講習会 ……06
アンケート結果報告 ……06
救命救急講座報告 ……07
THEわが班紹介 ……08
有意義な新入社員研修 ……08
自然の雄大さ・大切さ・怖さを同時に体験!! 09
法人会員紹介 ……10
何かをしなければ! ……10
台湾・玉山の山旅 ……11

小下沢NOTE 秋

9月



10月



間伐作業体験記

苦労を忘れさせるドスン!!

金井邦之

今月の定例作業は間伐です。暑すぎもせず、スズメバチの攻撃もなく、作業環境は上々。

日ごろから、あまり期待されるメンバーでなく、その他大勢に属する僕としては、あまり無理をせず、迷惑をかけない程度に、参加している。

今日は、いつもと違って、やる気のあるメンバーと組むことになり、少々、勝手が違う。３人１組で作業を開始、檜の伐採にかかる。30度くらいの斜面で、安全を確保しながら、一本目は一番端の周りに妨害の少ない、直径20センチ位の木にとっかかる。受け口を切り、ロープで倒す方向を決めて、追口を切ってうまく倒した。倒す方向に、人がいないことを確認、声を掛け合って作業した。（この件は厳しく指導されているので問題ない。）ただ、予想しない小さな事故はよく起きる。斜面を転げ落ちるとか、切った丸太に指を挟まれるとか、小さな事故も転がっているので、気が抜けない。今回も切った丸太が足の上に倒れて、泣くほど痛かったが、自分のドジをアピールするのが阿保らしく、痩せ我慢した。

２本目は、直径30センチ位で、手鋸で切れる最大クラスの檜。周りを木々に囲まれて、倒す方向が非常に難しい木を選んでしまった。嫌な予想どおり、掛かり木になってしまった。ロープで引いても動かない。通りかかったリーダーに助けて求め、ロープで山側に引っ張り、少しずらして、さらに、谷側にロープを掛け直して、皆で必死に引っ張って、奇跡的に倒すことができた。掛かっていた枝が外れて、どすんと大きな音を立てて倒れた時の快感は、苦労を忘れさせてくれる。次のエネルギーになる。

カラビナ２個で3人力

D班　堀田昌直

高尾の森づくりの会では、「安全第一、ノルマ無し」をモットーにしている。このモットーを持続するためにも、そろそろ定例作業での無駄を減らす工夫が必要ではないか。間伐作業では半分以上が懸り木の処理に費やされることもある。最近はロープ、手鋸用楔、長鋸など、必要工具が整備された。これらに数個のカラビナを加えることで、無駄を少なくできる。定例作業では直径20cm程度の木を倒す場合が多い。見た目にはそれほど太くないが、重量は200kgある。このような木に、単純なロープの１本引きは、高尾の急傾斜地では思うように行かず却って危険な場合もある。２個のカラビナを利用するだけで、格段に安全かつ楽に倒す方法がある。目的の木に結わえ付けたロープの、その木に近いところにカラビナを固定し、動支点にする。さらにロープを伸ばし、倒し先近辺の木に締結したもう１個のカラビナに通す。ロープを折り返して先ほどの動支点のカラビナに通し、再び折り返してロープの端を引くのである。動支点で力は３本のロープに分割され、そのうちの１本を引くのだから、200kgの負荷は70kgになる。引っ張る方向を変えれば倒す方向も変えられ、２人もいれば十分である。大きな木を思ったように動かすのは爽快であり、爽快に無駄を省けるのは愉快ではないか。この方法は、設定・撤収が楽なうえに、懸り木や倒木の牽引、木回しにも利用でき、山では何かと便利である。

好評「森の働き講座」（紙芝居）

–第4回「日本・ラオス友好の森植樹祭–

川久保芳男

前回までのラオス植樹祭は、暑さと太陽の照り返しの中での作業でしたが、今年の９月21日夕方、バンビエンのタボンスックリゾートホテル周辺は、前日夜から降り続ける雨で石灰岩の山々は雲に隠れ、川幅は広く、水の流れも早く、今まで見たことがない状況でした。

22日の植樹祭日の６時30分ホテルの食堂に集合した時、植栽地への出発を７時30分から８時に変更、天気予報では、午前中まで雨（あまり当らないとガイド）先ず、現地にバスで出発。集合場所にラオス農業省普及局農業技術サービスセンター（ATSC）ラッタナ所長他（10名）、村民(30名)、学生(48名)、ラオス在住日本人(７名)、ラオス直行組(10名)、ベトナム観光経由(10名）のラオス人(88名)+日本人(27名)総計115名。弁当・ペットボトルを持って、雨具・傘で植栽地へ！

熱帯地域に分布する赤褐色の土壌、高温多雨のために岩石が著しく風化した地面は、雨水で滑る山道や所々に沢水が発生、ラオス人はサンダルでスイスイと上り下り移動。10時30分から12時40分（植樹時間を短縮）全員無事に帰還。その後全員が（ＡＴＳＣ）へ移動。大きな部屋で龍さん・ラッタナさんの挨拶、昨年も好評だった馬場さんの「森の働き講座（紙芝居)」。ラオスの人たちが真剣に聴いていたのが印象的でした。

記念品贈呈後に我々がセンターを出るとき、村人・学生が贈答品を胸に抱えて、村長がお礼のあいさつを述べたいと待っていた。植樹の大切さを教えてもらった事、学生に文房具、村民に石鹸・タオル・衣類のプレゼントの感謝、来年もまた来てくれとの依頼がありました。

雨の中植樹へ

その晩のお疲れさん会にラッタナ所長や村長達が加わり、ラオス・日本の唄を交互に競いとても美味しい酒の席でした。ラオスのお酒について、村人達が飲んでいる酒の名称は「ラオラーオ」度数が40度から45度、まるで泡盛ようです。原料は現地のインディカ系の米です。沖縄の泡盛の起源かも？700 cc ボトルの単価は１ドルとガイドが言う。残念ながらホテルのメニューにない。その都度、ガイドに市場まで行って買って来てもらう。飲み方は、安全な氷とペットボトルの水にライム（一杯の１ケ）最高でした。

ラオス植樹祭に参加して

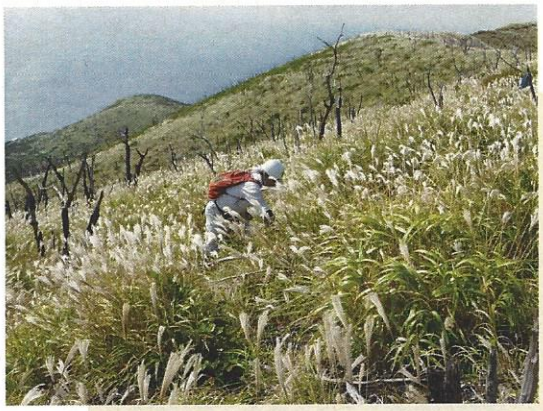
東京大学農学部　中岡・布山

私たちは龍さんにお誘い頂きラオスの植樹祭に参加しました。高尾の森づくりメンバーの方々をはじめ、その他参加者の方々には大変お世話になり、本当にありがとうございました。

訪問のお話を頂くまでラオスという国についてはほとんど何も知りませんでしたが、今回の植樹祭で実際に現地の方々と交流する中で、ラオスの方々の温厚な人柄、のんびりとした風土に魅かれていきました。しかしそういった気質故の危機感の薄さが、現在のような森林減少を招く一因になったようにも感じました。

今回の植樹祭は生憎の大雨でしたが、雨が降ればその日の予定を潰すほどのんびり気質のラオスの方々が、雨の中全員参加している様子はとても驚くべきものでした。これはひとえに過去三回の植樹祭の中で「高尾の森づくり」がラオスの方と良い関係を築き、植樹がいかに重要なものかということをラオスの方に伝えられていたからなのではないのかと思います。

残念なことにまだラオスの中では“森づくり”という考えは一般的ではありません。したがってラオスに日本の森づくりに関する技術や知識を普及・定着させることは非常に難しいことです。しかし、私たちは今回のラオス滞在の中で、共に植樹を行った村民や学生だけでなく、強い影響力を持った方が本活動に高い関心を抱いていることを感じ、ラオスが“森づくり”を行えるようになるのはそう遠くない未来だと確信しました。



MIYAKEJIMA

チェーンソー初体験30本伐倒！

小南全功

–第13回三宅島緑化再生プロジェクト–

台風一過の10月16日（木）２２時過ぎに浜松町の竹芝桟橋を参加者11名が、定期船「さるびあ丸」で三宅島に向け出帆する（少し懇親会をしながら）。

翌朝５時過ぎに三池港に接岸後、宿へ向かい仮眠をとる。８：30民宿「さつき」に集合しリーダーの渡辺美夫さんより当日の班分けと作業内容の説明を受ける。

班はA班「甑の穴」（こしきのあな）のメンテナンス。B班「七島展望台」の枯損木の伐倒。私はA班に加えられ「甑の穴」入り口に繁茂した「あじさい」を鎌で強剪定する。

剪定後、甑の穴に向かうと４台の刈払機がうなりを上げ繁茂した草を払っていた。５月の作業で綺麗に払っていたが、一夏を超すとこんな状態になる。つくづく村役場を主体にした村民によるメンテナンス体制・方法の整備が必要と痛感した（役場主体で看板やベンチを整備し観光ガイドパンフレットにも載せているのだから）。

14時過ぎに作業は終了し見違えるように綺麗になった。宿に帰りB班の作業状況を聞く。チェーンソー初作業体験の小木曽さんが、30本伐倒したと興奮して話していたことが印象に残った。

２日目は１名昨夜発便で到着し森林組合・伊豆緑産・島民ボランティアの方を含め総勢17名で七島展望台にハチジョウススキの生い茂るところにヒサカキ500本、タブ300本を植樹する。植樹後は思い思いに磯釣り・温泉・巨樹の森散策（私は椎の実拾いに夢中）を楽しむ。

３日目は次の開墾地の下見後、新造船「橘丸」に乗船し「三宅島に緑をありがとう」の三宅島森林組合製作の横断幕に見送られ帰路に着く。40～50代（若手）の皆さん、年１回位三宅島緑化や気仙沼大島復興ＰＪなどに参加する事をお勧めします（人脈が広がり高尾の森づくり作業もより楽しくなることでしょう）

KESENNUMA

東日本森林復興支援・気仙沼大島プロジェクトに参加して

山田信和

–第8回気仙沼大島プロジェクト–

第８回となる本プロジェクトは、11月14日から17日の４日間で開催されました。参加者は最大29名、天候にも恵まれ作業は、順調に進みました。

思いの外処理する枯れ木が多く、特に亀山に関しては前回までのプロジェクトでは枯れていなかった松が枯れその範囲から大きく広がっており、松喰虫等の被害が広がっていると感じました。浦の浜港から見る亀山の山頂は、近頃めっきり寂しくなった自身の頭頂を思い起こし、少しですが「シュン」となりました。

既に別のボランティアによる植樹が進んでおり、今後亀山を桜の名所を目指すようですが、まだ時間がかかりそうです。

参加者全員が、安全第一で作業して頂いたお蔭を持ちまして、今回も無事故で終了しましたが、私の「ヒヤリハット」がありました。気仙沼大島では枯れた松等の伐倒が主な作業なので大きな災害に結びつかないよう、次回以降の参考までにご紹介します。

状況……龍前崎遊歩道脇の立ち枯れた「杉」（直径15センチ未満、高さ10メートル位）を伐倒する際、枯れた木の枝（直径５センチ、長さ１メートル）が作業者（私）の近くに落下しハッとした。

原因……伐倒する木の状況をよく確認しなかった。

枯れた木の伐倒では、木の状況をよく確認し枝の落下も考慮した安全な作業位置に立つことが必要である。安易に木を蹴飛ばすなど論外である。

左山田さん、右茂出木さん

カキパーティに大満足

チェーンソー作業特別講習会

見違えるような上達！

研修担当　馬場

過日募集しておりましたチェーンソー作業特別講習会については、8月2日、3日の2日間にわたり、厚生労働省が定めるチェーンソーによる大径木等伐採作業の特別講習を行いました。

受講者は無料。但しテキスト（林業・木材製造業労働災害防止協会発行手引き）代として2，500円／人を負担。受講者の皆様お疲れ様でした。

講師には、当会会員で元林業・木材製造業労働災害防止協会の主任安全管理士の経歴を持ち、外部研修機関の講師をされている松隈茂先生にお願いしました。ご多忙のところ、2日間有難う御座いました。

講習会の両日とも好天に恵まれ、初日の2日は、9時半から17時半頃まで3日は9時半から16時までの所定の課程の教習を終了しました。この講習会の講師のサポートとして、機械作業班から2日は2名、3日は3人が、特に実技教習のサポートをしました。サポート頂いた、諏訪さん、寺田さんお疲れ様でした。

受講者全員に、後日当会より受講修了証を発行致します。この受講終了により、当会活動で、機械作業が出来ます。以上ご報告致します。

講習を終えての感想

今回の受講者は、ノコでの間伐は経験者の域と認識しておりますが、チェーンソーの扱いは鋸とは違う事を実感されていました。
また、この研修を通じてより高度な伐採作業に触れ、勉強になった様子。
加えて、講師、サポートが会員でかつ会員だけの受講者の講習会であったことで、過去自分を含めて外部研修機関での講習と比較して、
① 対話をしながらのアットホームな教習
② 講師、サポート役からの要所々々でのヒヤリハット事例の紹介
③ 伐倒作業、玉切、枝払い作業を森林内で実体験
等充実した講習になったのではと思います。
講師からは、最初は心配だったが、終了してみて「全員見違えるように上達した」との感想が述べられた。

喜び勇んで参加！

竹内信彦

高尾の森の間伐、チェーンソーは怖いと敬遠していましたが、当会の初心者向けに、安全教育からチェーンソーを使った伐木までの講習会を実施いただくこととなり、喜び勇んで参加しました。
講師陣も、講師資格を持つ松隈さん、チェーンソー実践経験豊富な当会機械班の面々で、充実した内容でした。
座学で教わった、特に安全についての内容は、手鋸の作業でも必要なため、改めて重要性を痛感しました。
翌日の実習は機械の整備、操作実践に続き、本番の伐木作業です。
手鋸では経験豊富な受講者の面々でしたが、チェーンソーでは切れすぎ、中々思い通りにいきませんが、貴重な体験です。
実習時にも、其の都度安全作業方法を繰り返し教えていただき、これは習得できたと自得しています。
私は今後も主に大鋸、手鋸での作業をして行きますが、今回の受講は森林ボランティア活動に非常に有意義であったと感じています。
今後も、より安全安心できる森作りができるように同様の講習会を開催していただき、多くの会員が受講されれば良いと思いました。

「高尾の森づくりの会」の成立要件

参加する最大の要因は??

アンケート結果報告

東京農業大学
地域環境科学部
森林総合科学科
森林政策学研究室4年
片野美里

初めて活動に参加しようと思った決め手について　最も多かった回答は「環境の為になることをしたかったから」でした。やはりボランティア活動は環境の為に活動したいという人が多いようです。次に「活動内容」が多く、これは下刈りや間伐などの普段の生活では経験できない作業に興味を持った人が多いためと思われます。

活動に参加し続ける理由について　最も多かった回答は「作業そのものが楽しいから」と「参加者の人達と会うのが楽しいから」でした。初参加の決め手で「多くの人と接したかったから」と答えた人が全くいなかったにも関わらず、「参加者の人達と会うのが楽しいから」と人と接することを楽しみにする人が増えていました。初参加の人はミーティングの時間に自己紹介や活動を終えた感想を言う機会が与えられ、作業も丁寧に教えていただけます。この初参加でも会に馴染みやすい環境が、人と接することを楽しみにする人を増やしたのだと思いました。

意外だったことは、初参加時には「環境の為になることをしたかったから」と思っていた人が24人もいましたが、現在参加し続ける理由にそう答えた人は僅

—刈払機講習会—

機械作業者には近づかない！

淡路文恵

刈払い機の特徴や基本的な扱い方を学べたのはもちろん、作業全般の安全確保の重要性について再認識できる充実した内容でした。

私たちは常々作業時は「機械で作業をしている人のそばには絶対近づくな」と注意しています。今回自分でも扱ってみることにより、集中してしまうと、本当に周りの気配に気づかない、聞こえないということを実感できました。刃のキックバック（跳ね返り）体験でも、ほかの人がやっているのは「わざとやっています??」と思って見ていたのに、いざ自分もやると、意図せぬ方へ引っ張られるように大きく腕が横に振れてしまいました。

ふだんの作業では、周りの安全になおいっそう目を配り、機械作業者には近寄らない、近寄らせず、事故がないように努めたいと思います。

松隈先生、サポートをしてくださった馬場さんに、永田さん、寺田さん、どうもありがとうございました。

か10人だったことです。活動を「環境の為」ではなく、「作業そのものや参加者との交流を楽しむため」と考える方が、また活動に参加したいと思えるのだと分かりました。活動に楽しみを見出すことが活動を続けたいと思える最大の要因になっていると考えられました。

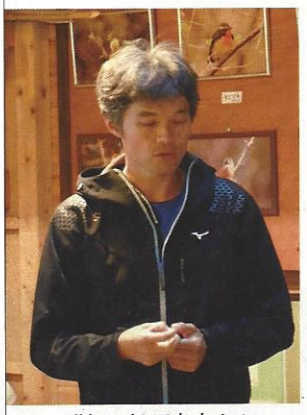
アンケートへのご協力ありがとうございました。

救命救急講座報告

講座への参加人数は「レスキュー講座（23名）」「救急法講座（18名）」と、会員の20%の方々が参加され高い関心が伺えました。

レスキュー

けが人を山から下ろす！


講師の松原尚之さん

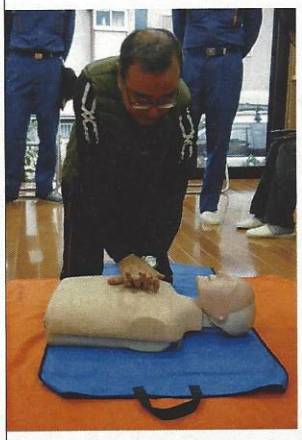
11月1日（土）日本山岳会員で山岳ガイドの松原尚之さんを講師に招き、作業中にケガをした仲間を急きょ山から下ろすためのノウハウを教えていただきました。

あいにくの雨の中23人が参加。けが人の「背負い方」「即製の担架の作り方」など指導を受けた。ザックやストック、ロープなどを組合せた一見簡単な方法であったが、いろいろコツがあり興味深く、我々にとっては大変参考になるものであった。午前中はベース小屋で実際に道具を使いながら一通りのことを学び、午後からは晴れ間も出てきたので近くの作業道に登り実地訓練。一人で背負って歩く困難さを交代で体験したあと、ザック３個を繋いだ担架にケガ人を載せ、６人で搬送してみましたが簡単で楽に運べることを全員が体験できました。幸い各作業班から参加者があったため、班の全員が今回の技術を共有し絶えず練習を重ねて使いこなせば、「非常時」にはかなり有効に機能するだろうことを痛感しました。

松田昭郎

救急法

救急車が来るまでに何を!?


会員の大津さん

11月6日西浅川町内会館をお借りし、西浅川消防署の方３名のご指導により救急法を学びました。

心肺蘇生法、刃物での怪我、足首の捻挫・骨折・ハチ刺され、熱中症に対して、救急車が来るまでにとりあえず急いでやらなければいけないことを体験に基づいた指導を受けました。

いつ起こるかわからない怪我や事故に対して少しは心構えができた気がします。

今後も継続して取り組んでいけたらと思う。お世話になった町内会の矢吹さんお礼申し上げます。

松川征夫

THE わが班紹介

ものづくり・小屋管理班

述べ参加人数はなんと「633名」（年間）

ものづくり・小屋管理班の活動日は毎週木曜日と毎月第３土曜日です。班員は９時半頃までには小屋に集合しています。小屋内外の異状の有無を確認し、小屋・トイレ・物置を開錠し、風を入れます。皆で賑やかにする昼食を挟んでの約６時間が在場時間です。年間を通じては下記の例のような作業をおこなっています。

- 小屋外面の保守（外壁塗装、テラスの補修・防腐塗装、雨樋の清掃、臨時の補修）
- 小屋の保守（畳の虫干し、窓・網戸洗い、収納棚・扉制作、不用品の処分、掃き掃除）
- トイレの管理（清掃、汲取り立会い、料金箱の管理、手洗い水の確保、トイレ紙の準備）
- 発電機・バッテリーの管理（発電機保守、ハンドマイク・無線機用BT充電、太陽光発電パネル）
- 植樹祭向け準備（名札つくり、篠竹塗装・名札取り付け、標識つくり、体験コーナ）
- 木工品製作（近隣施設への寄贈向けを含む屋外用椅子・テーブル、イベントでの販売用品・展示ボード、収納箱・作業台、製材、薪など）
- 会の所有物の保管維持管理（テント・シート類、ヘルメット類、木工用設備・備品類など）

一日の作業が終われば後片付け、清掃、戸締りを確認し小下沢を下ります。この12か月では63回の定期活動日があり、延べ参加人数は633名でした。毎回平均10名、月平均52名の班員が参加したことになります。

リーダー　仲　洋二

次に気持ちよく使うために

1年間のほこりを叩きました

テント干しも大変だ

有意義な新入社員研修

高尾山一丁平草刈り作業

三葉幸二郎

汗を流す新入社員

わが会の協力団体になっていただいている京王電鉄さんが昨年めでたく創業100周年を迎えられた。

記念事業として考えられたのが「高尾山　一丁平への植樹」であった。

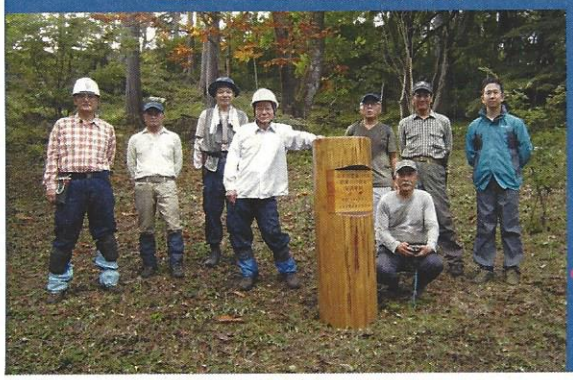
一丁平は皆さんもご存知のようにトイレや飲み水もあり休憩スポットとして申し分ありません。植樹を行う以前は草が生い茂りどこに休憩する東屋やベンチがあるのかわからないくらいでした。昨年４月にヤマザクラ50本、オオモミジ25本とイロハモミジ25本が植えられ、併せて記念碑も建てられました。（写真下）

この記念する事業のメンテナンスを我々高尾の森づくりの会に応援依頼が来て京王さんとともに草刈りを行っているのです。

今年も４月、８月、10月と３回おこない、述べ20名の会員が参加して下草刈りに取り組んできました。

特に４月の作業は入社時研修会として京王さんに入社された約20名の方々が徒歩で高尾駅から日影沢経由で約２時間半もかけ参加された。いつもはカマやノコギリを使ったことがないので終えるときは刃がボロボロ！　致し方ないことだが。研修にてお互いたっぷり汗を流すことで同期の結束が高まるとのこと、有意義な研修会である。

最初の地拵えから既に３年になりました。多数参加下さった皆さんありがとうございました。お陰様で楽しいひと時を過ごすことができました。



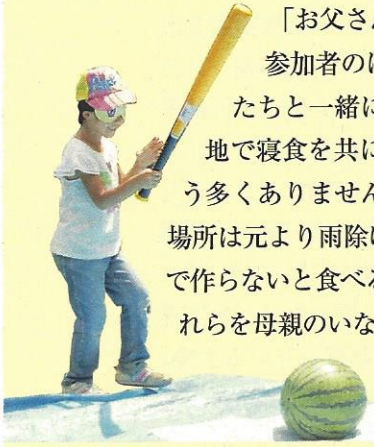
100周年記念碑を囲んで

自然の雄大さ・大切さ・怖さを同時に体験!!

清新第一小学校親子キャンプ10周年を迎えて……

松尾泰典
（清新第一小学校
お父さんの会会長）

このイベントは子供たちが通っている学校PTAの「お父さんの会」が企画して、高尾の森づくりの会のご協力と共に開催しているキャンプです。それが脈々と受け継がれついに10周年を迎えました。まずは、毎年、多大なご支援・ご協力をいただいている河西さんをはじめ高尾の森づくりの会の皆様に感謝申し上げます。



「お父さんの会」が企画していることもあり、参加者のほとんどは父と子です。普段、子供たちと一緒に過ごす時間が短い親父達が高尾の地で寝食を共にし、多くの時間を過ごす機会はそう多くありません。都会での生活とは異なり、寝る場所は元より雨除けの屋根もなく食事も自分たちで作らないと食べることすらできません。これらを母親のいない環境で行うので、すべてを参加者のみ（父・子）で行わなければなりません。さらに、高尾では子供たちの「遊び」にも変化が生まれます。普段は流行りのカードゲームやテレビ、携帯ゲームなどが中心ですが、ここではそれらはすべて必要ありません。（というか、ありません）自然を相手に体を動かし、体全体で自然を感じて遊びます。また、素人ではできない沢登りや流しそうめんなど親子共に遊んでいます。しかしながら、自然を相手にするとやむなく中止せざるを得ない状況が生まれることも多々あり、遊びを通して自然の雄大さ・大切さ・怖さを同時に体験できることがこのキャンプが10周年を迎えられる所以ではないだろうか。

楽しかったのは沢登り！

僕は一年から六年まで高尾キャンプに行きました。一番楽しかったのは沢登りと山登りです。沢登りは四年から五年まで悪天候ためできませんでした。でも、六年になって沢登りが出来てよかったです。山登りは雨で途中下山したこともあったけど、頂上からの景色がとてもきれいだったので今年も登りきれました。

僕は高尾キャンプに行って疲れることも多々あったけど6年まで参加できて良かったと思いました。中学生になってもまた行きたいです。

伊藤洋輝（小6）

スイカはどこ～！

元気をもらって成長して帰ってきた！

夏が近づくと、子どもは、親子キャンプを楽しみにしております。流しそうめんや、虫とり、沢登り、なかなか都会では、体験出来ないことに、目を輝かせています。キャンプから帰って来た時も、疲れどころか、元気をもらって成長して帰ってきたように思えます。いつも、「来年も絶対に行きたい」と言っています。今年は、お土産に小さな切り株を持って帰って来ました。今は、家の玄関に置いてあり、とてもいい香りがします。高尾の森づくりの会の皆さまには、先日初めてお目に掛かりましたが、とてもパワフルで、驚きました。「この方々が高尾の森と子どもたちを全力で守って下さっているのですね」と感謝の気持ちでいっぱいです。

山本香（母）

法人会員紹介

富士電機

高尾の森50年、100年計画に貢献

富士電機の高尾の森活動は2005年にコニカミノルタさんから誘いがあり法人会員となったのが始まりです。2009年春の植樹祭の後、当時の友高工場長の一声で社員、山岳部に広がりました。ヘルメット、作業着を揃え、急斜面もなんのその、雪でも作業に行く意気込みでした。今では植樹祭・紅葉鑑賞会、定例作業も社内イントラで参加者を募り、毎月15人程、年間200人を越える活動になっています。作業後は富士電機とメタウォーター
会を行い、作業のアレコレを肴に盛り上がります。

富士電機はまた、上野原農地再生と称して、遊休農地が荒れないよう、野菜を作る活動もしています、高尾の紅葉鑑賞会への大根・白菜・さつまいもの差し入れは、上野原で社員が作り、収穫した野菜です。会社のCSR活動を束ねているのが社長室CSR部の市田部長、工場取り纏めが千木良主査です。これまで数回、河西代表、会員有志、市田部長、富士電機会員で懇談会を重ね、今後の活動を熱く楽しく語っています。

会社の紹介をすると、主に製造業界の設備を作る会社で一般には知られていません。目にする製品では、自動販売機がトップシェアで3台に1台は富士電機製です。最近ではセブンイレブンのコーヒーマシンがあります。私事ですが、昨年夏3か月間、コーヒーマシンの応援で三重工場に出張しました。伊勢神宮の式年遷宮に当たり、伊勢神宮～熊野古道・伊勢路を完歩～熊野速玉大社まで参拝出来ました。高尾の森で月1回働くと、峠を越える体力が維持できると実感しました。

さて、富士電機は毎年夏にご近所様とふれあいの場として工場を開放した納涼祭を開きます。今年は8月22日(金)、ゲームや工作教室、屋台・模擬店など、来場者で賑わいます。高尾の森はここ5回「木工品」「工作コーナー」の模擬店を出し、毎回完売、ノコギリを使う工作は子供に大人気です。

売物は「まな板」、「トナカイ飾り」、「鍋敷き」「パズル」「ペン立」など、木工班の力作です。まな板は人気で、毎年買っている主婦。好みの長さにカットして買った女性。店頭でパズルを完成させた男の子とパズルが大好きでと買ってあげたお母さん。トナカイ飾りを本当にこの値段でいいの？と若い女性。様々なお客様でめでたく完売です。

最後に、富士電機はこれからも高尾の森の50年、100年計画に貢献できるよう、森つくりと人作りを進められれば良いと考えています。

一戸 均

何かをしなければ！

ーマイナス4℃の会「暑気払い」に参加してー

C班　岡 義雄

（八王子市・日野市在住の会）

高尾山へ行くたびに毎回このビアホールーを横目にみながら、いつかは入ってみたいと思いつつ素通りしてまだ1回も立ち寄ったことがなかったが、今回は、「百万ドルの夜景」とか「4℃……」とか、一部訳の分からぬ誘い言葉に乗せられて飲心をくすぐられ、ついその気になってしまった。普段顔を合わせているが、黙々と作業に勤しんでいるためか（?）、名前と顔がなかなか一致せず、この機会に交流を深めたいということも参加のもう一つの理由であった。

1度に大勢が入れるレストランで、しかも飲み放題、食べ放題、とあって厳重な入場管理のもとやっと席に着くことが

玉山頂上にて
笑顔の全員。

台湾・玉山の山旅

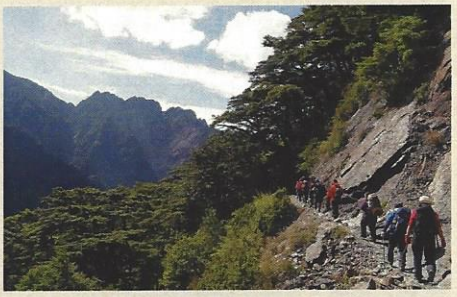
吉川正幸

平成26年10月27日午前３時、排雲山荘と名づけられた山小屋（3400ｍ）を、高尾の森づくりの会の17名は出発した。月明かりのない闇の中を玉山の頂上を目指して、急こう配の斜面をもくもくと登る。玉山の旧日本名は新高山、開戦の暗号ニイタカヤマノボレの山であり富士山より高い3952ｍである。

息を切らせながら高度を上げると、５時を過ぎてから見上げる稜線の反対側が白んできて、頂上らしきものが見えてきた。道は頂上近くまでよく整備されていて、ガイドの林哲全さんの先導で暗い中を歩いても不安はなかった。急斜面の道の終りが玉山の頂上であった。５時50分に全員が頂上に到着した。

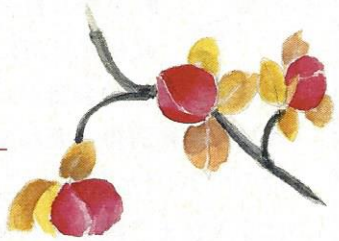
頂上を踏む間もなく、東の空が見る見るうちに白んできた。雲の間からご来光をみることができた。気温は５度前後、無風で視界は良好、北側には遠く雪山山脈の連なりを見ることができた。平均年齢70歳を超える全員が玉山の頂に立つことができた。まさに快挙であった。

排雲荘への登り、標高3000ｍ付近のツガの巨木の自然林の中を登る。植生は、平地の幹の細い常緑広葉樹、登山口2400ｍの広葉樹林、2800ｍを超えると針葉樹林（台湾鐵杉・台湾冷杉）と高度を上げるにつれて変化する。森林限界は3600ｍ付近で、限界植生は背の低い竹であった。



頂上から排雲荘を経て、その日のうちに下山した。10キロ、高度差1500ｍのつらく長い下りであった。風化の進んだ岩の斜面が多く、土砂崩れの現場を見ることが多かった。不思議に水の流れる谷はなく、眼下の谷筋も荒れ放題であった。

帰路立ち寄った玉山北部の水里郷に、昭和13年に設置された登山道の道標が残っていた。玉山主峰の初登頂は、明治29年９月に陸軍中尉の隊が登ったと言われている。戦前の新高山へのアクセスは北面のここから往復１週間かかったとのことである。



できた。食べ物用の皿１枚と、ビールジョッキ１つが各自に渡され、空にした皿やグラスを持っていかないと次がもらえなというシステムなのだ。

食べ残しや、飲み残しを少なくするには合理的な方法だし、今世界的に「もったいない」という言葉を大切にする草の根運動が広がっているようだが、その最先端を行っていると感心する。

飲むほどに、酔うほどに、本音の会話が進み、お互いの経験や素性が解ってくるにつれて、この会には多種多様なものすごい経験者が多いとびっくりした。会にとって小下沢一帯のフィールドが宝の山ならば、この素晴らしい会員と組織はもっと輝いている宝だと感じた。言いたいことを言い、会員の数だけプロジェクトがあるという自由闊達な雰囲気がにじみ出ている。それにしてもこの宝を束ね、各色の輝きに磨きをかける幹部の方々のご苦労には頭が下がる。

「山の日」の制定が決まり、温暖化や自然災害の増加とともに、「森林活動」の重要性も増してきた現在、同じ目標を持つ仲間との楽しいひと時であったと同時に、「何かをしなければ」という元気がもらえたひと時でもあった。

事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

9/6（土）	森の研修会（間伐作業ほか）	16人
9/13（土）	定例作業（下刈り）	115人
9/20～25	ラオスプロジェクト植樹ツアー	のべ210人
10/11（土）	定例作業（間伐）	119人
10/12～14	美林見学（天竜林業）	台風のため中止
10/17～19	三宅島緑化再生プロジェクト	のべ44人
11/8（土）	定例作業（間伐）	129人
11/14～17	気仙沼大島復興プロジェクト	のべ75人
11/22（土）	臨時作業（法人交流紅葉鑑賞会）	137人

今後の主な作業・行事スケジュール

12/6（土）	森の研修会（木工）
12/13（土）	定例作業（間伐）
1/10（土）	定例作業（間伐・地ごしらえ）
2/14（土）	定例作業（間伐・地ごしらえ）
3/6（土）	森の研修会
3/14（土）	定例作業（間伐・地ごしらえ）
4/4（土）	臨時作業（地ごしらえ）
4/11（土）	定例作業（地ごしらえ）
4/12（日）	植樹祭

第3（土）・毎週（木）…ものづくり・小屋管理班作業日
第1（水）…生態調査班作業日　第3（日）…機械作業班作業日

- **集合場所**：高尾森林事務所前広場
- **集合時間**：定例日は9:00までに集合して順次マイカー相乗りでベースへ移動します。（ベース9:20集合）
- **参加連絡**：事務局/龍久仁人あてご連絡下さい。
  E-mail：ryu-kun@cablenet.ne.jp　電話：090-4373-1555　はがき：〒332-0031 川口市青木1-21-7-402
- 定例作業への体験参加を希望される方は、上記事務局あてに申し込み（住所、氏名、電話、メールアドレス記載）の上、集合時間前までにおいでいただき、受付を行ってください。

入会者紹介

8月以降次の方が入会されました。
山口竜朗、青木亨、山田将光、
川村俊太、小川一成

寄付ありがとうございます

石原国利様からご寄付を戴きました。
ありがとうございました。

森の研修会に参加しよう

12月6日（土）　テーマ「木工教室」
9時半ベース集合

林野庁長官賞受賞

池谷キワ子さん（五日市）

当会の会員の池谷キワ子さんが11月21日に林業経営推奨の林野庁長官賞を受賞されました。武蔵五日市にある池谷さんの山林で、当会の会員が『枝打ちの会』に参加し技術習得を兼ねてお手伝いを始めたのは2004年10月、このプロジェクトは昨年秋まで続きました。大してお役に立てなかったと思いますが、これまでの活動を懐かしく振り返り、メンバー一同お祝いを申し上げます。　（白井聰一）

15周年準備委員会の発足について　石井倫行

高尾の森づくりの会は、来年15周年を迎えます。
10月の定例作業後の実行委員会において、その記念行事の準備を行う準備委員会の発足が決まりました。
準備委員会は、記念祝賀パーティーの諸事項の他、10周年後の5年間の歩みについての記念誌発行なども検討する所存です。準備委員は募集中ですので、ご協力頂ける方はメール（ishiim@mvh.biglobe.ne.jp）で連絡下さい。なお12月に、初回の打合せを作業小屋で行う予定です。よろしくお願いいたします。

編集後記

松田さんから引き継ぎました「松川」です。
編集担当が松田さんになって投稿人数が以前に比べ年間倍増（60数名）になりました。今後も一人でも多くの方に登場いただくこと、またホームページと更なる連携をしていこうと思っています。
小木曽さん・日比野さんと共によろしくお願いします。　（松）

発行者／日本山岳会「高尾の森づくりの会」　発行日／平成26年11月28日　発行責任者／河西瑛一郎
編集／松川征夫　デザイン／田代悦子　印刷協力／コニカミノルタウイズユー（株）
「高尾の森」通信は間伐紙を使っています